

GRASP-Japan カフジ活動報告

2011年4月26日 山極寿一

事業計画

「カフジ・ビエガ国立公園における地元住民による類人猿保全活動と環境教育への援助」

カフジ・ビエガ国立公園では1993年に地元住民によるNGOポレポレ基金が設立されて以来、われわれ日本人研究者とコンゴ人研究者の協力の下にゴリラやチンパンジーと人との共存を目指した活動が続けられてきた。活動の主体は、住民自身の手によるゴリラとチンパンジーの遊動と類人猿の食物となる果実のフェノロジーのモニタリング、および就学前の幼児から大人までを対象とした環境教育学級の経営である。地元住民が類人猿の生態調査に参加することで類人猿への関心を高め、それを地元の財産として管理する。そして、類人猿の動向や環境の変化を環境教育学級で毎月報告して、他地域の類人猿や他の動物などと比較することによって地元の自然の価値を再認識することを目指している。すでに、6つの環境教育学級が作られ、1600人を超える子どもたちや親たちが参加して活発に活動している。

本事業はこれらの活動を支援するため、類人猿調査や環境教育学級の人件費の補助、調査に必要な装備、環境教育の教材、図書などを購入する。

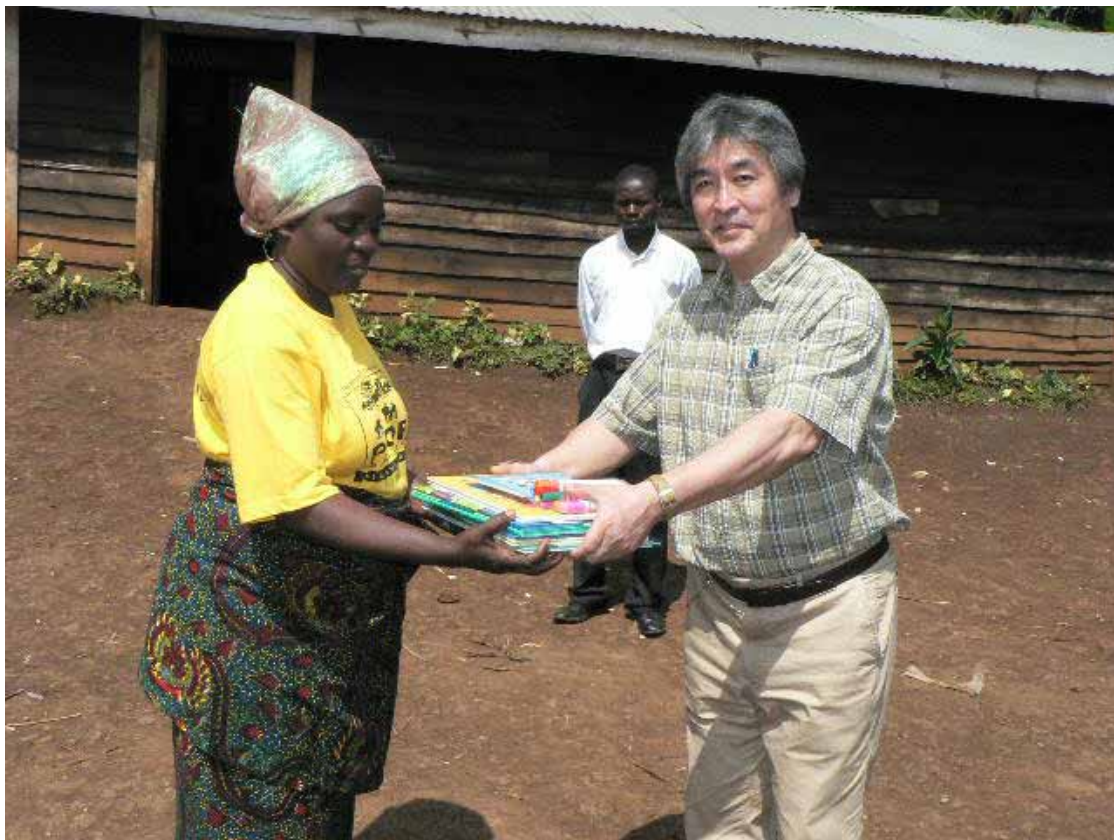
品目	単価(円)	数量	金額
人件費(モニタリング)	1,000	4人 X150日	600,000
人件費(環境教育)	1,000	2人 X100日	200,000
ガソリン代(モニタリング)	100	20リットル X20回	40,000
文房具 教材購入費			100,000
図書購入費			60,000
物品輸送費			50,000
通信 雑費			50,000
合計			1,100,000

2010年の活動

10月末にモンベル財団から寄贈されたテント5張、レインコート20着、デイパック20個、ヘッドランプ20個を現地へ郵送し、カフジ・ビエガ国立公園でゴリラとチンパンジーの遊動調査や果実のフェノロジー調査に用いてもらった。現在人付けをしているゴリラやチンパンジーの集団は遠くへ行ってしまうことがあり、日々の遊動ルートを追跡するために公園内でキャンプすることがしばしばある。これらの装備は大変有用であるとスタッフは喜んでいる。また、3月の末に山極が現地を訪問した際に、環境学級を訪れ、日本から送った絵本や筆記用具を贈呈し、図書や文房具の購入費用を届けた。現在、環境教育学級は地域で高い評判を呼び、多くの子どもたちが集うようになっている。このため、環境教育に携わる教員の数を増やし、その分人件費を多く支出した。生徒たちとも交流の機会をもったが、大変明るく素直な子供たちであった。多くの生徒たちが将来野生動物の保護や森林の管理事業に携わりたいと希望を述べた。



現地の対応研究者 AK BASABOSE 氏と、新しい装備を身に付けてモニタリングに出かけるスタッフ



環境学級に図書や文房具を寄贈



環境学級で元気いっぱい学ぶ子供たち



カフジでは今、ゴリラのベビーブームを迎えている

カフジ収支報告書

#	日付	項目	入金	支出
	2010. 10. 22	(財)日本モンキーセンターより 振込	1, 100, 000	
1	2010. 11. 2	装備郵送代		141, 100
2	2011. 3. 26	人件費(環境教育)		300, 000
3	2011. 3. 26	人件費(モニタリング)		500, 000
4	2011. 3. 26	文房具・教材購入費		100, 000
5	2011. 3. 26	図書購入費		50, 000
6	2011. 3. 26	ガソリン代		8, 900
		合計		1, 100, 000